長期戦略:テーマ　「 教員個人・組織の教育力向上」

提出日　2022 年　8 月　24 日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者（統轄部署）	小谷高等教育推進センター長（高等教育推進センター）	実施計画の担当部署	教務機構

1. 実施計画

実施計画（タイトル）		取組開始	達成状況確認年度	学部・研究科での取組み有/無	帳票
1-(12)-⑥	成績評価の厳格化	2019 年度	2024 年度	必要⇒【必須型】（全学部または全研究科での取組みが必須）	不要

内容

文部科学省は大学に対して厳格な成績評価を求めており、多面的な評価を行うことを大学に期待している。例えば、定期試験やリポート一回のみで成績評価を行うのではなく、複数の評価方法を用いて評価を行う、もしくは単一の評価方法であったとしても複数回評価を行うことであり、多面的な評価を行うことで成績評価の厳格化につなげることができる。
そこで、これまでの指標では成績評価の厳格化に対する効力がないため、多面的な評価を実施している科目数を現行よりも増加させることを目標とする。多面的な評価を実施している科目数を集計するためには、シラバスデータから必要項目を抽出できるとよいが、現行のシラバスでは容易にできない仕様になっている。そのため、まずは集計できる体制を整える必要があり、システム改修も視野に入れて検討する。
現行のシラバスには、成績評価方法として「定期試験」「定期試験に代わるリポート」「授業中試験」「平常リポート」「その他」の５種類があり（２種類以上選択することも可）、それぞれに対して基準欄（入力は任意）が設けられており、そこに各評価における具体的な内容（「リポートを授業期間中に2回実施」「授業への貢献度」等）を入力できるようになっている。しかし、多面的な評価を行っているかを確認するためには全件数、目視で確認する必要が生じる。
そこで、成績評価として「その他」を選択しているもののうち、基準欄に頻出する評価方法を抽出し、現行の５種類の成績評価方法に加えることを検討する。成績評価方法を増やすことで授業担当者は複数の成績評価項目を選択しやすくなると考えられる。また、「授業中試験」「平常リポート」において授業期間中に何回実施するかが分かるように、例えば、回数欄（仮称）（「１回」もしくは「複数回」を選択できるような欄）を新たに設けることについても検討を行う。こちらについては、システム改修が必要となるため、2023 年度のシステムリプレースに向けて検討を進め、難しい場合は、費用計画を立て予算申請を行うことも視野に入れる。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	多面的な評価を実施している科目の割合（学部）	学部・センター開講の全授業科目数に対して、多面的な評価を実施している科目（成績評価として複数項目を選択、もしくは回数欄（仮称）で複数回を選択している科目）の割合
指標2		
指標3		

目標1＜指標1＞　多面的な評価を実施している科目の割合（学部）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
目標			40%	45%	45%	
実績	―	37.4%				

目標2＜指標2＞

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
目標						
実績						

目標3＜指標3＞

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
多面的な評価を実施している科目の割合（学部）	策定段階	学部の取り組みに関する現状調査	方策検討	方策実施	方策実施	方策実施
	2023 年 3 月末段階	成績評価方法が単一の方法で実施されている科目について調査済	・多面的な評価の抽出方法について検討 ・成績評価方法が単一の方法で実施されている割合について調査	方策検討	方策検討・実施	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	方策実施	方策実施	方策実施	方策実施	
	2023 年 3 月末段階	—	—	—	—	
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】
非公開

経費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							

人員・人件費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							

４．進捗状況・得られた成果

2019 年度	成績評価の厳格化に関する取り組みについて、学部等への調査内容の検討を進める予定である。 また、実施内容については高等教育推進センターと相談・検討をする。 成績評価方法について調査を行い、成績評価方法が一つのものが約半数を占め、そのうち、学部では約 30%が定期試験のみの評価であった。
2020 年度	2020 年度シラバスデータをもとに単一の評価のみで成績評価を行っている科目の割合を算出したところ、約 67%であった。単一の評価のみで成績評価を行っている科目の中には、複数回評価を行っているものも含まれるため、2022 年度の目標値を 40%と設定した。 また、シラバスの基準欄の書き方が授業担当者によって異なるため（評価方法の内訳を詳細に記載しているものもあれば、リポートの評価観点を記載しているものもある）、シラバス執筆依頼の際に明確に伝える必要がある。
2021 年度	2021 年度シラバスデータをもとに単一の評価のみで成績評価を行っている科目の割合を算出したところ 62.6%であり、前年度より約 5 ポイント減少していた。成績評価として「授業中試験」「平常リポート」「その他」を選択しているもののうち、基準欄に頻出する評価方法の抽出を行った。その結果、「プレゼンテーション、発表」が頻出しており、その他の評価方法は既存の評価項目に分類できそうなものが多かった。また、授業中試験や平常リポートに関する内容が「その他」に含まれているケースも散見されるため、適切に運用できるような仕組みの構築や各評価項目の再定義が必要である。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

５．今後の課題及び方向性

2019 年度	成績評価の厳格化に関する取り組みについての調査結果を受けて、方策の検討が必要である。
2020 年度	定期試験一回だけではなく各回の評価を積み上げ成績評価を行うことは、成績評価の厳格化とともに授業外学修時間の確保につながるため、具体的な方策の検討が必要である。
2021 年度	成績評価として「その他」を選択しているもののうち、基準欄に頻出する評価方法の抽出を行う。そのうえで、現行の成績評価項目に追加するにふさわしい項目についての検討を行う。
2022 年度	成績評価として「授業中試験」「平常リポート」「その他」を選択しているもののうち基準欄に頻出する評価項目を追加することについて検討を行う。また、『シラバス作成の手引き』等を通じた各評価項目の再定義や各評価項目に該当する評価方法の例示が必要である。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・2021 年度授業スケジュール再編およびコロナ対策等を優先したため、実質的に取り組めていない状況である。 ・各教員へアンケート調査を行う予定であり、どのような質問項目とするか検討中である。 ・(2021 年度以降定期試験期間が短縮されることを念頭に)多面的な成績評価の導入・推進が必要。	継続 ・ 廃止	・同左(多面的な成績評価の導入・推進が必要) ※1-(12)-③CAP 制の実質化とあわせて検討する必要がある。

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	